

ブレない！曲げない！あきらめない！

佐久市議会議員

大井岳夫後援会報

第12号

2015年1月

発行責任者
土屋征男

ご報告

6年前の初当選時、議会に新しい風を吹かせ、議会改革を進めようと、高橋良衛議員、小山仁志議員（当時）と3人で会派「新しい風」を立ち上げました。

その後改選も経て、5人で「市民の風」として活動をさせていただきましたが、市政課題や請願・陳情を議論する過程で意見のかい離が生じたこと等により、昨年12月をもって私は単独で会派を離れ、新年より無所属で活動することとなりました。

しばらく無所属での活動となりますが、これまでの活動スタイルに何ら変わりはありません。引き続き「是々非々で市政をチェックし、提言していく」という考えにご賛同いただける議員との連携も含めて、新しい会派の立ち上げを模索していきたいと思えます。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

TDK 千曲川工場跡地にシチズン時計を誘致

●これまでの経緯

市内の工業用地が枯渇する中、私は佐久の商業発展、雇用の創出のためには、TDK千曲川工場跡地の有効活用が最重要課題であると考え、てきました。ついでには市が用地を買い取り「医

療・福祉」といった市が強みを持つ業種の企業を中心に誘致すべきである。と数年にわたり訴えてきました。

それまで「当該用地は民間所有であり、買い取るとしても多くの課題がある」とから、調査が必要。引き続き情報の収集に努める」と慎重な発言をしていた市も、その後の情勢の変化により買い取りに舵を切り、公示価格で16億円ともいわれる用地を、最終的には10億円という破格の価格でTDKのご厚意により一括購入する運びとなりました。

●水面下で交渉は進んでいた

市が一括購入を決め、議会で可決されたのは9月30日。何とそれから一か月も経たない10月21日に、市はシチズン時計へ取得額と同額の10億円で用地を一括売却する方針を打ち出したのです。（交渉日程は「守秘義務」により明らかにされていません）

そこで示されたシチズン時計の方針では、平成28年度中旬には300人体制で工場を稼働させ、将来的には400人体制にしたい、というものでした。

●佐久商工会議所より異例の声明文が

さて佐久商工会議所は、数年前から市内に「インキュベーション施設（産学官連携の産業支援拠点）」の建設を要望し

てきました。

そんな中、TDK千曲川工場跡地を市が買い取る方針が示されたことから、商工会議所は改めて10月10日、市長と議長に当該跡地に「インキュベーション施設」の建設を求める要望書を提出しました。

しかし、買い取りが9月30日の議会で可決されてから10月21日のシチズン時計への売却方針が示されるまで、商工会議所と市の意見交換の機会があったにもかかわらず、一切話が無かったこともあり、11月14日、商工会議所会頭より「土地の売却先を公募しないで一括売却の運びとなったことは、極めて遺憾」という抗議がなされました。

●5億円の補助金に見合う効果を！

「佐久市産業立地応援プラン2014」によると、リスク分散のために市外から市内へ立地する企業へは、用地の購入に対して最大で5億円の補助制度があり、今回のケースにおいても適用される見込みとなっています。

ただ、補助をするからにはそれに見合う効果が無ければなりません。現在見えている「将来的に400人体制」の方針は、2万5千坪の土地を十分に活かすものではありません。12月18日には正副議長がシチズン時計本社を訪れ、「早期の工場建設、将来にわたる土地全体の活用と雇用拡大、工場建設や物品調達などに際して市内企業の活用」を要望しました。

私も、諸課題を問題提起しながらも最終的にはシチズン時計への一括売却に賛成した立場より、敷地全体が最大限に活用され、正規の雇用をできるだけ生み、5億円の補助金に見合う効果が早期に生まれるよう、引き続き厳しくチェックし、商工会議所が求める産学官連携施設の早期実現も含めて提言してまいります。

※リスク分散とは：現在の工場等が立地している土地で想定されるあらゆる災害に備え、危険を分散することにより事業活動を継続しようとする。浅間山の噴火災害が想定されるエリアも含まれるため、御代田町からの移転も対象となる。

●地元企業との連携・支援を、改めて考える

ここまで、佐久市の商工業の発展を担い、雇用を守ってきたのは、紛れもなく地元で額に汗して働いてきた地元企業の皆様です。

その皆様が事業・販路拡大のニーズがある際はそれを把握し、バックアップする（苦境の際は助ける）のが行政（政治）のあるべき姿である。銀行勤務の経験からも考えてきました。

そのためには、商工会議所、商工会等の経済団体との日頃からのコミュニケーションが不可欠です。佐久市職員数が減少し、1人あたりの負担が重くなっている中、負担軽減の観点からも、商工会議所等の経済団体とコミュニケーションを密にし、時にはシンクタンクとして頼りにする事こそ、これからの佐久市にとって

必要ではないでしょうか。

佐久平駅の新幹線停車本数は維持へ

●延伸時の停車本数は現状維持

（24往復）が決まる！

これまで、一昨年の市議会議員選挙における「お約束」で、私は市民の暮らしやすさの維持・向上、企業誘致、商工業発展につながる「佐久平駅の新幹線停車本数維持」を訴えました。

そして停車本数を維持するためには佐久平駅から新幹線を利用する人を増やすことが最重要と捉え、利用者増加につながる施策提言をライフワークにしてきました。

市の施策では未だ目を見張る成果は表れていませんが、要望活動の効果もあってか、昨年12月19日、今年3月14日の新幹線金沢延伸時において、佐久平駅の新幹線停車本数は現状維持の24往復となること発表されました。

●今後の停車本数はどうなる？

JR東日本の発表では「今後の停車本数は利用動向を見ながら変化させていく」とありました。

ということとは、停車本数が増加することもあれば、減少する可能性もあるということになります。

では、停車本数を維持、できれば増加

させていくためにはどうしたらいいのでしょうか。考えるうえで、まず他駅との比較検討の中から、佐久平駅の特徴を分析していきたいと思えます。

県内各駅の停車本数と、乗降客数の比較

駅名	停車本数(臨時を除く)	1日平均乗車人数	うち、定期券利用者
佐久平駅	24往復	2,498(▲44)	921(+5)
軽井沢駅	上り25本 下り27本	3,083(+166)	380(+22)
上田駅	25往復	2,821(+122)	379(+23)
長野駅	41往復	6,623(+243)	893(+39)

※停車本数は臨時を除く

※乗車人数は新幹線のみ。小海線やしの鉄道は含まない。

※乗車人数・定期券利用者は平成25年度実績、カッコ内は前年比

上記の比較から見えてくる佐久平駅の特徴は？

プラスの特徴・・・定期券の利用者が最も多い。

マイナスの特徴・・・他の駅と比較して、乗車人数が前年比で減少しているのは佐久平駅のみ。

これからは今まで以上に、弱みを認識しつつ、強みを伸ばしていく施策が必要ですが、特徴である定期券の利用者が多い理由として、私は大きく①暮らしやすい（道路交通網が整備されている、買い物が便利、医療機関の充実、天候が良い、など）②首都圏から近いの2点を挙げたいと思います。これが佐久の強みではないでしょうか。

●将来にわたつての停車本数維持に向けて

さて、県内各駅をめぐる動きとして、軽井沢駅はサミット誘致に向け（今年4月に開催地が決定される見込み）、全国に向けたPR、要望活動を活発に行っています。

上田駅は昨年（サントミューゼ（市民交流文化芸術センター）完成、来年1月より始まるNHK大河ドラマ『真田丸』の放映が決まり、活気づいています。

長野駅は今年、善光寺の御開帳があり、例年以上に多くの観光客が期待できます。

佐久平駅はその中で地域間競争を勝ち抜き、利用者を増やしていかなくてはなりません。ではそのための取り組みをどうすればいいのでしょうか。

私はこれまでの分析も踏まえ

①強みを活かした移住定住の促進

②観光戦略の確立

③医療・福祉を重点としたまちづくり

④商工農業の発展（地元企業支援）

⑤先進的な取り組みの推進、視察の受け入れ
の特に5点に力を入れることが、佐久平駅利用者を増やし、停車本数維持につながっていくと考えます。今後もこの5点を柱に、皆様からのご意見もいただく中で、具体的な提言に努めます。

議会での質問で取り上げた項目(抜粋)

●9月議会の質問から

◆温浴施設の整備計画について

問) 建設総額や計画について、どのように市民の理解を得るのか。

答) 本施設が観光拠点である平尾山公園の魅力を引きさらに高め、また市民の健康づくりにも寄与できる施設としていくことを丁寧な説明し、理解を得たい。

問) 掘削をした結果、温泉が出なかった際はどうするのか。

答) 一旦この計画については立ち止まって考えたい。

問) 利用者を年間20万人とし、黒字化を想定した根拠は。

答) 実績を有する専門コンサルにより推計をされたものであり、安定的な運営が十分期待できる。

問) 建設総額は18億円余まで膨らんだが、今後、地元還元施設の上限設定についてどのように考えるのか。

答) 場面において判断していきたい。

●12月議会の一般質問から

◆産学官連携施設の設置を求める

問) これからの佐久市商工業発展には、佐久商工会議所求めている「インキュベーション施設」の設置が必要。設置に向けた協議会のあり方、計画の策定をどのように考えているか。

答) 協議会設置に向けては始めに商工団体と準備会を開催し、協議会設置に向け

た構成やスケジュールなどを検討していきたい。

問) ではその準備会をいつ発足させるのか。

答) 早急に取り組みたい。

問) TDK千曲川工場跡地の売却先も決まり、再び市内工業用地が枯渇する状況にある。新たな工場用地の確保が急務だが、中佐都IC周辺の開発、東芝旧佐久工場跡地の市による買い取りについてどのように考えているか。

答) 企業誘致を推進するうえでは、新たな工業用地の確保が必要不可欠。中佐都IC周辺は適地であるが、造成に向けて多くの課題があるので、慎重に検討を行う必要がある。

東芝旧佐久工場については、会社として今後の活用を検討している最中であると聞いている。

●佐久広域連合議会の一般質問から

◆小海線の活用、沿線地域活性化を！

問) 近代の佐久地域の発展は小海線と共にある。平成27年は、小海線の全線開通80周年、小諸〜中込駅間では100周年という節目の年を迎えるが、2年前のダイヤ改正では運行本数が4本減少してしまった。

先人から受け継いだ財産を次の世代に残していくためにも、沿線地域住民に今以上に関心を持っていただき、利用していただかなくてはならない。小海線利用者の増加は、新幹線の利用者増にもつながり、相乗効果もあると考えるが、広域としてどのように考えて

いるか。

答) 小海線は広域観光の推進を図るうえで貴重な資源の1つであるので、沿線関係市町村との連携を一層図る中で竜岡城五稜郭や旧中込学校など、沿線にある歴史や文化、美しい自然が楽しめるスポットなどをPRして、一層の観光振興、利用者増を図っていく。

問) 日本各地で運行されているSLを、小海線でも運行できないか。

答) JRにお願いしたが、物理的な問題に加えて運行路線の費用対効果に問題があり、不可能であるとのことだった。

◆小海線にSLの復活を！

質問以降の調査も含めると、小海線にSLを走らせる(復活させる)ためには、仮に中込学校に展示されているSLを走らせるとすると、課題として①整備費に数千万円かかる ②運転手等技術者の養成 ③全国から来る鉄道ファンの安全対策 ④煙に対する沿線住民の理解 等、多くの課題があることが分かりました。

しかし、このまま利用者の減少↓運行本数の減少を座して待っている訳にはいきません。

仮にJRが小海線から手を引き、民間会社に移管されるようなことがあれば、運賃が跳ね上がるのには目に見えています。

SLの運行はハードルが高いのは事実ですが、引き続き実現に向けて活動を続けるとともに、佐久商工会議所の構想にあるトロッコ列車の運行、しなの鉄道の「ろくもん」のような特別列車の運行、しなの鉄道と連携したフリーパスの

導入や、小海線を観光ツアーの中に組み込む等、実現に向けて提言に努めてまいります。

※佐久広域連合とは：佐久市、小諸市、軽井沢町、御代田町、立科町、佐久穂町、小海町、北相木村、南相木村、南牧村、川上村の2市5町4村で構成されており、議会は各市町村長(佐久市長が広域連合長)、人口比率に応じて各議会より議員が選出されて構成されています(佐久市議会からは議長を含む6人が選出されており、私はその1人です)。

消防、勝間園など老人ホームの運営、広域の観光連携、食肉センター・火葬場などの運営を担っています。

【ここまで、敬称等略】

議員定数の議論について

私は一昨年の市議選時に、議員定数を「現状の28人から4削減して24人」とお約束させていただきました。

これまで、私が所属する議会改革特別委員会が中心となり、講師を招いて研修会を行うとともに、全議員にて討議してきましたが、「現状維持」「削減すべき」とする意見が拮抗している状況です。

「現状維持・もしくは増やす」とする主な理由としては、多様な民意が反映しづ

らくなる。行政へのチェック機能が弱くなる。「削減すべき」という主な理由としては、少数精鋭の議会であるべき。若い世代の参加・挑戦を促すためにも、定数を減らして報酬を上げるべき。等の意見が出されています。

昨年11月には男女比や年齢・地域バランスに配慮しながら市内1千人を対象にアンケートを実施し、330人の方から回答をいただきました。結果は6割の方が、現在の定数について「多い」とされ、2割の方が「ちょうどよい」というものでした(残り2割は「分からない」もしくは未記入)。

この結果を尊重しながら、お約束を果たせるよう、引き続き議論していきます。なお、特別委員会では今年4月までに結論を出す予定です。

ご寄付への御礼

前回の後援会報に「ご寄付のお願い」を同封させていただいたところ(後援会に入会いただいている方が対象)、多くのご寄付を賜りました。

広報活動等、大切に遣わせていただき、更に活発に活動する糧とさせていただきます。紙上をお借りして改めて御礼申し上げます。

●連絡先：佐久市鳴瀬1-1-7 電話：67-4222

Mail: sunno@kishi2000@yahoo.co.jp

日々の活動状況はツイッターやブログなどで発信中！「大井岳夫」で検索をお願いします！